

平成 22 年 3 月 21 日作成 想田 光
平成 22 年 3 月 24 日修正 森 道昭
平成 22 年 3 月 26 日修正 森 道昭
平成 22 年 4 月 5 日修正 森 道昭
平成 22 年 4 月 15 日修正 森 道昭

日本物理学会第 65 回年会ビーム物理領域インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録

日時: 2010 年 3 月 21 日(日) 17:40-18:45

場所: 岡山大学津島キャンパス文法経講義棟 1F 第 14 講義室 (BF 会場)

出席者(敬称略): 鎌田(代表)、浜、小瀧、神門、柏木、菖蒲田、大熊、川瀬、小方、飯島、野田、栗木、中村(剛)、羽島、紀井、坂上、山本、鷺尾、井上、森(芳)、境、森(道)、想田 (計 23 名)

進行: 境

書記: 想田、森(道)

配布資料: 議案 (資料 2010S-1)

前回議事録 (資料 2010S-2)

キーワード一覧 (資料 2010S-3)

補足資料: JPSJ ニュース(抜粋) (資料 2010S-4)

(内容)

- I. 前回議事録確認 (資料 2010S-2)
- II. 報告事項 (資料 2010S-1, 2010S-3)
- III. 審議事項 (資料 2010S-1)
- IV. その他 (資料 2010S-4)

I. 前回議事録確認

前回議事録について配布資料（資料 2010S-2）に基づいて概要を説明する形で確認が行われ、承認された。

II. 報告事項

A) 物理学会ビーム物理領域関連

1. 申込時のキーワードの追加変更（資料 2010S-3）

申込時のキーワードの追加変更に関して、前回(28 個)から大幅に増え 71 個になった事が報告された。今年末に再検討を行うため、キーワードに過不足があれば意見を出してほしいとのアナウンスがあった。

2. 合同シンポジウム・招待講演の提案・採択の確認

合同シンポジウム・招待講演の提案・採択の確認を行った。今年度は、合同シンポジウム 6 件(うちビーム物理領域主担当 3 件)、招待講演 2 件、合同セッション 1 件(領域 2 との合同)の提案・採択があったことが報告された。

3. 他領域との合同セッションについて

昨年度より、領域 2 と継続的に合同セッションを行っている旨が報告された。今年度はビーム物理領域経由で 12 件、領域 2 経由で 5 件、計 17 件の合同セッションでの発表があった。

4. 一般講演件数の推移と増加への働きかけについて

発表件数の推移については、2005-2006 年が 70 件前後、2007-2009 年が 45 件前後であったが、今年(2010 年)は 52 件(招待講演 2 件を含む)で昨年と比較して微増となっている。またシンポジウム(主担当のみ)はここ 2~3 年間 15 件程度を継続しており、他領域と比べても安定して多い状況となっている。今後も継続して発表件数の増加に向けた取り組みが必要であり、研究室メンバー・学生の発表を奨励する旨のアナウンスがあった。尚、共催の合同シンポジウム/合同セッションを含めた発表件数は、計 98 件(内訳：一般講演 38 件、合同セッション 17 件、招待講演 2 件、受賞記念講演 1 件、シンポジウム(主催) 18 件(趣旨説明を含む)、シンポジウム(共催) 22 件(趣旨説明を含む)であった。

5. 若手奨励賞推薦枠数について

鎌田代表より、若手奨励賞の推薦枠数について領域委員会で議論が行われたとの報告があった。現状のビーム物理領域の推薦枠は 2 件である。当面は 2 件の推

薦枠が維持されるが、講演数を元に推薦枠が決められるため、次回見直し時に推薦枠が減らされる可能性が高い。

(参照 URL : http://wwwsoc.nii.ac.jp/jps/WakateA/wakate_youkou.htm)

まだまだ応募数が少なく、学位論文に基づいた推薦を奨励するとのアナウンスがあった。

6. 次回 2011 年物理学会年会での企画について

2011 年春物理学会での企画(シンポジウム企画)についてアナウンスがあった。現状では、医療、ビーム冷却、次世代放射光源が挙げられている。多くの企画は例年締め切り間際に提案が行われているが、早く提案してもらえば執行部(内容の検討および講演者の選定や合同セッションの場合は他の領域との調整等の時間を要する案件の処理が効率的に行うことができる)および提案者(早いうちに意見・提案が行われると意見が尊重されやすい)双方でメリットがあるため、できるだけ早く提案して欲しい旨のアナウンスがあった。企画講演のアイデア募集については後日メーリングリストなどを通じて通知する事になった。

B) その他

なし

III. 審議事項

A) 研究会組織関係

1. 新執行部の人事の選任・承認に関して

① 会長・副会長について

鎌田会長・浜副会長の体制は3月までであり、4月以降は浜会長・安東(J-PARC)副会長の体制で進めることが承認された。任期は2年、副会長は2年後に会長となる旨の説明が行われた。

② 奨励賞審査委員について

平成 22 年 3 月現在、審査委員は浜(東北大)、遠藤(広大)、岡本(広大)、羽島(JAEA)、浦川(KEK)、小山(東大原施)で進めており、委員長については互選または会長が指名を行っている旨の説明があった。慣例で3年を任期としている委員(浜、遠藤)と1年の条件で引き受けていただいた委員(岡本)が退任するため、新委員として、栗木(広大)、後藤(理研)、中村(JASRI/SPring-8)が就任することが承認された。

2. 研究会世話人リスト(beam-board@spring8.or.jp)の更新と承認に関して

鎌田代表から動議があり、世話人リストメンバーの追加・設置^注(顧問会(仮称)) について承認された。この設置に際し、今回の世話人会参加者を世話人リストに追加すること、また細則については夏の世話人会時での改正を目指し改正案(中身は今後検討)を用意して予め通知することになった。また、リタイアした人が適したポジションが無い^{ため}、名誉世話人もしくは顧問などの名称の新しいポジションも検討することになった。

注:会則より会長が世話人候補のリストを用意し、総会での承認を得る必要がある。

Q: 総会と世話人会は別では?→会則によると総会は年1回と規定されるが、会則の変更は可能。一方、世話人会は「年1回以上開催しなければならない」と規定され、細則の改訂ができる。(補足:通常は物理学会年会時の会合が総会に該当する)。

Q: 世話人の退任のシステムは無いのか?→本人が会長に世話人リストからの除外を申し出る以外には方法が無い。

B) 物理学会ビーム物理領域関連

1. 今秋の物理学会分科会への方針について

昨年は一般講演を募集しなかったが、今年も一般講演は募集しない旨で承認された。

2. 次期領域運営委員について

森(道)領域運営委員(任期 2009.11-2010.10)の後任(任期 2010.11-2011.9)として、大阪大学・羽原氏(専門は超高強度レーザー・プラズマ相互作用(レーザー核融合高速点火))が承認された。現在の世話人体制は以下の通り。

期間	世話人
2008年11月 - 2009年10月	森 芳孝
2009年5月 - 2010年4月	境 武志 (現)
2009年11月 - 2010年10月	森 道昭 (現)
2010年5月 - 2011年4月	想田 光
2010年11月 - 2011年9月	羽原 英明

世話人任期前の半年は見習いとして、任期後の半年はアドバイザーとして参加

3. その他

なし

C) 加速器学会関連

なし

D) ビーム物理研究会関連

1. 「若手の会」立ち上げの提案について

阪大産研柏木氏より「若手の会」立ち上げに関する趣旨説明が行われた。現在研究会内での横断的な学生間の交流が無い状態にあり、それをサポートする組織を立ち上げたい旨の提案が行われた。

(意見 1) 「若手の会」の具体的な方向性と、どのようなサポートを必要とするか要求を出してほしい

→(柏木) まずワーキンググループを作り、夏の世話人会において提案したい。研究会と考えると重くなってしまうので、学生のサークル的な雰囲気で開催することを考えている。

(意見 2) ビーム物理研究会は、隔年で SPring-8 と他のところでやっており、それを継続するのは問題ないが、若手の会までサポートするのは難しい。

(意見 3) 若手の会は独自に動いた方がいいのでは？

→(意見 4) 他の領域での若手は安定して学生の供給があるので学生中心で運営ができるが、ビーム物理研究会の規模では難しい。もう少し上の人間が引っ張る形が適切ではないか？

(柏木) 早稲田、広大、京大、阪大などある程度学生の人数がいるところが中心となって運営できればと考えている。夏までに案を考える。

→まず柏木氏の方でワーキンググループの人選を行い世話人会に諮る方向で検討することになった(承認)

2. ビーム物理研究会関連

今回のビーム物理研究会の開催場所について討議を行った。旅費の捻出の関係もあり例年は隔年の形で SPring-8 にて行っていたが、今年は加速器学会、XFEL コミッショニングがあるので、SPring-8 での開催は厳しいとのコメントがあった。研究会は 50-60 人の会場さえ用意できればどこでも可能であるため、電子蓄積リング AURORA と SCRIT 装置の見学会を兼ねて理研ではどうかとの意見があった。浜次期会長が理研・後藤氏に打診してみることになった。

IV. その他

1. JPSJについて (資料 2010S-4)

今後物理学会の論文誌(JPSJ)が二部構成に変わるが、ビーム物理領域の位置づけが弱いのでは無いか？

→ 2013年4月に新雑誌に切り替わる。現在は枠組み的に投稿しにくいところがあり、論文の多くはJJAPに流れているのが現状。キーワードなど、気軽に論文投稿しやすい環境になっているといい。

鎌田代表がフォローし、投稿しやすい環境を整備する方向で進める事になった。

2. 次问世話人会について

次问世話人会は加速器学会(於 SPring-8・8/4~6)開催期間中に行う。

以上

議題

ビーム物理領域インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会総会）

2010年3月21日(日) 岡山大学津島キャンパス

BF 会場(講義棟 1F14 講義室)

- I. 前回議事録確認(2009年8月第6回加速器学会年会会場)

- II. 報告事項
 - A) 物理学会ビーム物理領域関連
 - 1. 申込時のキーワードの追加変更に関して
 - 2. 合同シンポジウム、招待講演等の提案、採択の確認
 - 3. 他領域との合同セッションのあり方
 - 4. 一般講演数の推移と増加への働きかけに関して
 - 5. 若手奨励賞推薦枠数に関して
 - 6. 次回2011年春物理学会での企画(新潟大学)
医療系セッション、ビーム冷却セッション、次世代放射光源セッション、その他
 - B) その他

- III. 審議事項
 - A) 研究会組織関連
 - 1. 新執行部人事の選任、承認に関して（会長、副会長、若手奨励賞審査委員）
 - 2. 研究会世話人リストの更新と承認に関して
 - B) 物理学会ビーム物理領域関連
 - 1. 今秋の物理学会分会への方針に関して
 - 2. 次期ビーム物理領域運営委員(旧:領域世話人)の候補(期間2010/11~2011/10)
羽原 英明 氏(大阪大学)（森 道昭 氏(日本原子力研究開発機構)の後任)
 - 3. その他
 - C) 加速器学会関連
 - D) ビーム物理研究会関連
 - 1. 「若手の会」提案に関して

- IV. その他
 - 1.

平成 21 年 8 月 12 日版 境 武志
平成 21 年 8 月 20 日修正 境 武志
平成 21 年 9 月 3 日修正 森 芳孝

日本加速器学会 第 6 回日本加速器学会年会（原子力研究開発機構）
ビーム物理領域世話人会議事録

日時：2009 年 8 月 6 日(木)12 時 30 分～13 時 30 分

場所：原子力研究開発機構 原子力科学研究所 研究 1 棟 2 階第 6 会議室

出席者（敬称略）：鎌田（領域代表）、浜、小方、栗木、井上、中村、岡本、柏木、浦川、想田、岩下、
佐藤、森(芳)、森(道)、境

司会：森 芳孝、書記：境 武志、森 道昭、佐藤政則

(内容)

- I. 前回議事録確認
- II. 日本物理学会第六十五回年次大会（岡山大学 3 月 20 日～23 日）
ビーム物理領域の企画について
 - A. 開催方針とキーワードの提出について
 - B. 第二キーワードの追加について
- III. ビーム物理研究会の活動全般について
 - A. 次期ビーム物理領域世話人の選出について
- IV. その他

I. 前回議事録確認の確認

別添に沿って確認が行われ、承認された。

II. 日本物理学会第六十五回年次大会（岡山大学 3月20日～23日）ビーム物理領域の企画について

A. 開催方針とキーワードの提出について

2009年9月4日(金)までに開催方針とキーワードの追加提出、合同セッションの決定を行う必要があり、年次大会までの今後のスケジュールおよび、前回の開催方針、キーワードに関して説明がなされた。

第65回年次大会関連の今後のスケジュール

1. (9月4日) 開催方針、キーワード加筆・変更・訂正期日
2. (会誌10月号) 招待講演、規格講演、シンポジウム企画募集掲載
3. (会誌11月号) 講演募集要項掲載
4. (10月10日) 次期世話人選定締め切り期日
5. (10月9日～11月17日) 招待講演、規格講演、シンポジウム企画申込期間
6. (11月6日～11月20日) 一般公演申し込み期間（郵送）
7. (12月11日) プログラム編集会議
8. (1月上旬) プログラム初校校正
9. (1月上旬) プログラム暫定版 Web 公開
10. (1月22日) 講演概要集原稿締め切り
11. (12月下旬) 座長依頼発送
12. (会誌3月号増刊) プログラム掲載

昨年度の開催方針とキーワード

○ビーム物理領域：素粒子実験領域

ビーム物理領域と素粒子実験領域は合同セッションを設ける。合同セッションとする講演は、希望状況を考慮し、世話人の判断において決定する。

○ビーム物理領域：実験核物理領域：素粒子実験領域

ビーム物理と実験核物理領域、素粒子実験領域は「J-PARCと原子核素粒子実験」に関する合同セッションを設ける。合同セッションとする講演は、希望状況を考慮し、世話人の判断において決定する。

○ビーム物理領域：領域1（量子エレクトロニクス分野）

ビーム物理領域（キーワード：自由電子レーザー、放射光、ERL）と領域1（量子エレクトロニクス分野、キーワード：高強度レーザー、X線レーザー、超短光パルス、超

高速現象)は合同セッションを設ける。希望者は、それぞれ分野・キーワードを選択し、要旨欄に「ビーム物理領域合同」あるいは「領域1合同」と記入すること。記入のない場合でも世話人の判断において合同セッションとすることがある。

○ビーム物理領域(ビーム基礎分野):領域2(プラズマ基礎・プラズマ応用分野)

ビーム物理領域(第2キーワード:粒子ビーム、ビーム・プラズマ相互作用、加速原理、ビーム源)と領域2(第2キーワード:高エネルギー密度プラズマ物理)とは「レーザー・プラズマ加速」及び「高エネルギー密度プラズマ物理」の合同セッションを設ける。合同セッション希望者は、それぞれ分野、キーワードを選択し、要旨欄に「領域2合同」あるいは「ビーム物理領域合同」と記入すること。記入のない場合でも世話人の判断で合同セッションとすることがある。

キーワード

○第一キーワード

(1)ビーム基礎、(2)ビーム応用、(3)加速器科学

○第二キーワード

(10)粒子ビーム、(11)加速器、(12)非中性プラズマ、(13)ビームダイナミクス、(14)自由電子レーザー、(15)ビーム・環境体相互作用、(16)ビーム・プラズマ相互作用、(17)ビーム・レーザー相互作用、(18)異種ビーム相互作用、(19)空間電荷効果、(20)イオントラップ、(21)ビーム蓄積リング、(22)放射光、(23)加速原理、(24)ビーム冷却、(25)ビーム不安定性、(26)数値解析・シミュレーション、(27)電場計算法、(28)ビーム源、(29)ビーム診断・制御、(30)高周波生成、(31)物質・材料開発、(32)生命科学利用、(33)医療用装置、(34)医学物理、(35)消滅処理・慣性核融合、(36)エネルギー回収型線形加速器(ERL)、(37)その他

春の企画に関して

- ・例年シンポジウムは2~3件であり、前回はノーベル賞合同シンポジウムを除けば3件。
- ・前回提案されて、まだ実地されていないものは「ビーム冷却」、「KEKBアップグレード」、「医療」の3件
- ・シンポジウムは、2~3件を行うことで確認された
- ・領域2(プラズマ基礎・プラズマ応用分野)との合同セッションは、前回の領域2世話人会にて、基本的に毎回合同セッションを行う方針となった。
- ・前回、領域10から合同シンポジウムに関して話がある旨が説明され、医学系セッションとして、領域10へ合同セッションを持ちかける事となった。
- ・セッションとしては、兵庫県立粒子線治療センター、岡山大医学部、中性子治療、川崎医大、SPring-8の医応用などでセッションをまとめるなどの意見が出された。ただし、医療関係は、上坂氏に相談してみる事となった。

- KEKB アップグレード、XFEL、ERL に関して、物理学会は、ユーザーが多く出席するので、加速器学会よりもアピールができ、効果があるのではないかなど意見が出された。
- 領域 2 以外の合同セッションの進め方に関しては、開催方針に入っているが、講演が出てきたら行うことで了承された。
- 若手奨励賞の表彰は例年通り行い、春の学会で（分科会になっても）必ず行うことが報告された。
- 各講演、セッションのプライオリティ及び担当者を以下のように決め、了承された。
 1. KEKB アップグレード (Super KEKB 関連) (担当：佐藤氏)
 2. 次世代放射光源の新展開 (XFEL 関連) (担当：中村氏)
 3. 医療、上坂氏に相談の上決める
 4. ビーム冷却は、次々回以降に回す。

合同セッション担当者

領域 2 (森道昭氏)

領域 10 (森芳孝氏)

B. 第二キーワードの追加について

- キーワード数に制限が無さそうなため（規定が書かれていないのと、領域 1 では 75 個も有るため）、身近な言葉への変更や追加に関して意見がなされ、議論された。
- キーワード登録締め切りが近いと、今回の世話人会内で暫定版を決め、最終的に世話人内のメーリングリストで決める事が了承された。
- 追加、削除、議論されたキーワードは以下の通り。
 - プラズマ加速
 - ビーム・ビーム相互作用 ((18) 異種ビーム相互作用を削る)
 - 数理ビーム力学
 - ビーム理論
 - 電子顕微鏡
 - ビーム原子炉相互作用
 - (ビーム) コライダー
 - (36)エネルギー回収型線形加速器(ERL)を ERL(エネルギー回収型線形加速器)
 - アンジュレーター
 - 挿入光源
 - ウィグラー
 - 静電加速器
 - サイクロトロン
 - シンクロトロン

- FFAG
- AMS (年代測定)
- 医学応用
- 加速器駆動炉
- 中性子光学
- ミューオン
- ビームロス
- 線形加速器
- (35)消滅処理・慣性核融合を分け、消滅処理を ADS に変更
- イオン源
- 電子銃
- 偏極ビーム
- 中性ビーム

III. ビーム物理研究会の活動全般について

A 次期ビーム物理領域世話人の選出について

1. 境氏の後任(任期 2010.5~2011.4)の世話人候補として、京都大学化学研究所先端ビームナノ科学センター粒子ビーム科学の想田 光氏が推薦され、満場一致で了承された。現在の世話人体制は以下の通り。

期間	世話人
2008年5月 - 2009年4月	佐藤 政則
2008年11月 - 2009年10月	森 芳孝(現)
2009年5月 - 2010年4月	境 武志(現)
2009年11月 - 2010年10月	森 道昭
2010年5月 - 2011年4月	想田 光

世話人任期前の半年は見習いとして、任期後の半年はアドバイザーとして参加

IV その他

韓国のポハンでビーム物理研究会を開催することで進んでいたが、2009年9月7日(月)~9月11日(水)に中国の西安で Ultra-Short Electron & Photon Beams: Techniques and Applications (<http://ultrashort.ep.tsinghua.edu.cn/>) (上坂氏プログラムチェア) が行われることになった。今年は難しいため、来年度に韓国と共同で開催したい旨が報告された。

若手奨励賞は複数の応募が有り、浜選考委員長へ渡し選考中のため、今はまだ公表ができない段階である旨が報告された。

次回のビーム物理領域インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会総会）は、2010年3月20日～23日の日本物理学会第六十五回年次大会（岡山大学）中に開催する。

以上

ビーム物理領域

○第一キーワード(申し込み時必ず1つ選択)

- (1)ビーム基礎
- (2)ビーム応用
- (3)加速器科学

Beam Physics

○The first group of key words

- (1) beam physics
- (2) beam application
- (3) accelerator science

○第二キーワード(複数選択、3つ以内)

○The second group of key words

(10)粒子ビーム	(10)particle beam
(11)ミュオン	(11)muon
(12)ビーム源・プラズマ源	(12)beam/plasma source
(13)電子ビーム源	(13)electron beam source
(14)イオンビーム源	(14)ion beam source
(15)多価イオン源	(15)multiple-charged ion source
(16)中性子源	(16)neutron source
(17)ガンマ線源	(17)gamma ray source
(18)偏極ビーム	(18)polarized beam
(19)非中性プラズマ	(19)non-neutral plasma
(20)レーザープラズマ	(20)laser-plasma
(21)加速器	(21)accelerator
(22)静電加速器	(22)electrostatic accelerator
(23)サイクロトロン	(23)cyclotron
(24)シンクロトロン	(24)synchrotron
(25)線形加速器	(25)linac
(26)ERL(エネルギー回収型線形加速器)	(26)ERL(energy recovery linac)
(27)FFAGシンクロトロン	(27)FFAG-synchrotron
(28)プラズマ加速	(28)plasma acceleration
(29)ビーム蓄積リング	(29)beam storage ring
(30)コライダー	(30)collider
(31)ビーム・ビーム相互作用	(31)beam-beam interaction
(32)ビーム・レーザー相互作用	(32)beam-laser interaction
(33)ビーム・プラズマ相互作用	(33)beam-plasma interaction
(34)ビーム原子炉相互作用	(34)beam-reactor interaction
(35)ビーム・環境体相互作用	(35)beam-environment interaction
(36)光源	(36)light source
(37)放射光	(37)synchrotron radiation
(38)挿入光源	(38)insertion device
(39)FEL(自由電子レーザー)	(39)FEL(free electron laser)
(40)アンジュレーター	(40)undulator
(41)ウィグラー	(41>wiggler
(42)コヒーレント放射	(42)coherent radiation
(43)ベータトロン振動	(43)betatron oscillation
(44)テラヘルツ放射	(44)terahertz radiation
(45)電磁石	(45)electromagnet
(46)永久磁石	(46)permanent magnet
(47)常伝導電磁石	(47)normal conducting magnet
(48)超電導電磁石	(48)superconducting magnet
(49)パルス電磁石	(49)pulsed magnet
(50)電源	(50)power supply
(51)真空	(51)vacuum
(52)ビームダイナミクス	(52)beam dynamics
(53)ビーム理論	(53)beam theory
(54)加速原理	(54)acceleration principle
(55)数値解析・シミュレーション	(55)numerical analysis/simulation
(56)ビーム不安定性	(56)beam instability

(57)空間電荷効果	(57)space charge effect
(58)ビーム損失	(58)beam loss
(59)ビーム光学	(59)beam optics
(60)中性子ビーム光学	(60)neutron beam optics
(61)ビーム診断	(61)beam diagnostics
(62)ビーム制御	(62)beam control
(63)ビームモニター	(63)beam monitor
(64)インターロック	(64)interlock
(65)イオントラップ	(65)ion trap
(66)ビーム冷却	(66)beam cooling
(67)電磁場計算法	(67)electromagnetic field calculation
(68)高周波源	(68)rf source
(69)大電力パルス源	(69)high-power pulse source
(70)レーザー	(70)laser
(71)粒子ビーム応用	(71)particle beam application
(72)医学・生命科学利用	(72)medical/life science application
(73)医療用装置	(73)medical instruments
(74)医学物理	(74)medical physics
(75)物質・材料開発	(75)material science application
(76)電子顕微鏡	(76)electron microscope
(77)核変換技術	(77)transmutation
(78)慣性核融合	(78)inertial fusion
(79)加速器駆動炉	(79)accelerator-driven reactor
(80)AMS(加速器質量分析)	(80)AMS(accelerator mass spectrometry)
(81)その他	(81)others

2 ピアレビューの質の向上へ向けて

学術誌の質を決めているピアレビューの向上を目指して、現在、編集委員体制、および著者との接点を務める読者の充実を図る方策を進めています。前者については、JPSJへの投稿論文の多い分野においては編集委員の負担軽減のために、また、JPSJのカバーが薄い分野については論文のJPSJ投稿を喚起して頂くことも含めて、編集委員の増員を順次行っています。後者については、前回のニュースレター(No.12)でご報告しましたように、専任編集委員が中心となって、新しい読者データベース(DB)の構築

の作業を進めているところですが、現在、従来のWEB投稿・審査システムの一部として、WEB上で読者情報の登録ならびに検索を可能とするシステムの準備が整いつつあります。その重要な一歩として昨年末に、これまでに読者を依頼したことのある約1500名の方々へ同DBへの専門分野等の登録を依頼しました。2010年2月中旬段階で、このうち約50%の皆様からこれに応じてご登録をいただいております。言うまでもないことですが、DBが当初の目的の通りの機能を発揮するためには、可能な限り多数の読者

候補者の情報が集積されることが望まれます。ご登録がまだの皆様には、この事にご理解をいただきご協力をよろしく申し上げます。さらに、編集委員会・編集部としては、若い方々やJPSJのカバーの薄い分野においても新たな読者候補をリストアップし、これらの方々へも登録依頼をすることを計画しています。このような作業と並行して、同DBの有効活用に向けた技術的調整を進め、読者DBの利用を早急に開始するべく努力していますので、皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

3 Progress of Theoretical Physics (PTP) の統合問題について

昨年9月の物理学会理事会において、2013年4月に、PTP刊行を理論物理学刊行会から物理学会へ移行すること、移行後、物理学会は物理学の全分野をカバーする2種類の欧文誌—従来のJPSJの大部分を占めていた物性を中心としたものとPTPに素粒子、原子核、宇宙線等の実験を加えたもの—を出版すること、二欧文誌の分野の選定と名称は2011年春までに決定すること

等が承認されました(詳細は学会HP, <http://www.soc.nii.ac.jp/jps/ptp/tougou.html> 参照)。この問題を、単にPTP刊行の運営業務の変更と捉える以上に、日本物理学会がわが国における物理学の全分野の研究成果を世界へ向けて発信する学術誌を堅持・発展させていくための大変革と捉えることが不可欠です。JPSJとしては、前項でも触れました、(物性関連で)カバーの

薄い分野の克服に向けた努力が必要であり、また、移行過渡期においては、素粒子実験の論文の積極的な掲載も図らなければなりません。後者に関しては、PTPとJPSJの両編集委員会の編集委員を兼ねる研究者からなる「合同編集部」が素粒子実験の論文を実質的に審査・編集をする案(どちらに掲載するかは著者の投稿による)が検討されています。

4 編集委員長が交代します

2010年3月末で任期満了の高山一に替わって、4月から川畑有郷氏が編集委員長として、これまでの編集方針を受け継ぎつつ、JPSJの発展に努められます。

川畑次期編集委員長からのメッセージ:

JPSJの発展に必要なのは、物理学会会員が良質の論文を投稿してくれること事に尽きます。JPSJにはレベルの高い論文が多数掲載されていることを、世界にアピールするのが編集委員会の仕事であると考えています。